

木更津市少年野球低学年大会特別規則

1. 試合は5回戦、及びタイムゲームを優先とした1時間15分以内で勝敗を争う。但し、5回終了後1時間15分以内で勝敗が決まらない場合は、健康管理の面から大会特別規則2を適用する。同一投手の投球回数は3回（9アウト、特別延長戦も含む）とし、その試合には投手としてプレーができない。
2. 延長戦は、前回の最終打者を1塁走者とし2塁3塁の走者は、順次前の打者（投手は除いてもよい）として一死満塁の状態にして、1イニングを行い得点の多いチームを勝者とする。1回で勝者が決定しない場合はさらに継続打順で1イニングを行い、なおも勝者が決定しない場合は抽選とする。（※抽選方法は、球場責任者・責任審判員の指示に従う）
3. 得点差によるコールドゲームは3回均等回終了後10点差以上の時に適用する（決勝戦も同様とする）。
4. 日没、降雨によるコールドゲームは3回終了後適用し、3回終了前についてはそのゲームをサスペンデッドゲームとする。（但し日没、降雨の判断については審判員が球場責任者及び両チームの責任者を招集し協議決定する）
5. コーテシーランナーについては試合のスピード化を図るため当該試合のプレイヤー9名の中から代走（打者前位の者、但し投手、捕手は除いても良い）を認める。
6. デットボールは認める。また投手の変化球は禁止し、変化球に対してはボールを宣告する。再度繰り返した場合は交代させる。
7. 金属スパイクの使用は禁止する。捕手はマスク（SGマーク付き及びスロートガード）、プロテクター、レガース、ヘルメット、ファールカップを着用すること。更に攻撃側の打者、次打者、走者、ランナースコーチ、ボールボーイはヘルメットの着用を義務づける。（練習球を受ける控え捕手はマスク（スロートガード）、プロテクター、レガース、ヘルメット、ファールカップを着用すること。なお、着用しない場合は立ったまま投球を受けなければならない。また、試合前のノッカーへのボール渡しの選手もヘルメットの着用を義務づける。）
8. チーム構成は、成人者による代表者、監督、コーチ2名、スコアラー、介護員（保護者2名以内）と選手は（4年生以下）**25名**以内とする。
ベンチ入り指導者（監督、コーチ）においては「法人」が発行する認定指導者有資格者1名以上とし、試合時は資格証を常に携帯することを義務付けるものとする。ただし、新規加盟チームに於いては1年間の猶予を与えることとする。
*H27年度より無番コーチ2名のベンチ入りは廃止する。但し、監督・コーチがベースコーチャーズボックスに入ることを認める。
9. 大会出場チームは1チームの部員数が8名以下（1・2年生を除く）のチーム同士の場合は連合を認める。連合は選手数の少ないチーム同士数チームでも可能とする。※連合チームの中の1チームの部員数が9名を超えても連合していた他のチームの選手数が満たない場合はそのチームの選手登録は救済処置として認める。ただし理事会の承認をえることとする。
10. 単独で出場するチームの監督・コーチ・選手の服装は同色・同形のユニフォーム・帽子・ストッキング（アンダーソックス着用※ストッキングはアンダーソックス着用が分かること。）・アンダーシャツを着用すること。ただし、代表者・スコアラー・介護員の服装は、帽子に限り同色・同形のものを着帽し、靴は運動靴を着用する。

連合で出場するチームの服装および用具は、所属するチームのユニホーム、ヘルメット等の使用および着用を認める。ただし、背番号の色は統一し、番号は重複しないものとする。

11. ベンチ内への組み立て椅子・机等の持ちこみ・使用は禁止する（予め球場で準備されたもののみ使用すること）。給水用の机は審判の指示した場所に限りOKとする。ベンチへのテントの持ち込みは、両チーム平等の条件のもと、審判が許可した場合のみ使用可とする。
12. 使用球は、全日本軟式野球連盟公認球「J号球」とし、金属バットは「JSBB」公認マーク入りのものに限る。また、ヘルメットもJSBBマーク入りの両側イヤラップ付きを使用する。
13. アピールについては監督及び当該プレーヤーとする。また選手交代を行う時は監督が主審に申告する。
14. グランド内でコーチがランナーにタッチした場合はアウトとなる。
15. 先攻、後攻は両チーム主将の抽選とし、ベンチは組合せ番号の若番を1塁側とする。
16. エール交換は行わない。
17. シートノック時の監督、コーチは外野のシートノックの場合に選手から返球されたボールの捕球およびブルペンでの投球練習の捕手を行うことを認める。**また、試合開始後もブルペンも含めて、指導者の捕手を認める。**シートノックは5分間とする。
18. 集合時間は試合の概ね60分前とし、メンバー表の提出は30分前までに、監督、主将が3部本部に持参、球場責任者および審判員と共にグラウンドルールや注意事項を確認する。
19. 大会中の負傷、疾病等の応急処置は自チームで行うこと。一切の責任は傷害保険会社の扱いとする。
20. 各チームの応援団並びにベンチは、相手チームの気分を害さないよう少年野球にふさわしい応援で臨むこと。悪質な野次、アピール等を発したチームには当事者、またはチーム責任者、監督の退場を大会責任者、球場責任者、当該審判が命じることができる。
21. 大会において不正を行ったチームに対しては、相手チームに勝利を与える。また個々の選手の不正もチームの責任とする。
22. 大会規則は特別規則を除き、その年度の公認野球規則を適用して実施する。
23. 大会に出場する選手は、開会式に必ず参加するものとし、特別な理由がない限りこれ違反した場合、当該チームは試合に出場することは出来ないものとする。
24. 1試合のタイム数制限；5回戦迄は攻守2回。特別延長戦は攻守1回。守備時は3人以上集まれば1回とみなす。
25. 開会式後の移動等、試合会場移動の場合は、当該チームが試合会場の責任者に到着を報告後30分以内にシートノック開始を目安とする。
*選手宣誓・抽選会で都度決定する。

26. 次打者席では、投手が投球姿勢に入ったら、素振りをしてはならない。尚、投球姿勢に入る前の素振りの可否についてはローカルルールに従うこと。

【細則】

1. 特別延長戦の出場選手は、前回の終了時と全く同一でなければならない。但し、守備位置の変更は認める。尚、同一投手の投球回数3回（9アウト）は特別延長戦においても適用する。
2. 監督が投手のところに行くまでの往復は駆け足を励行する。尚、原則として投手をベンチに

呼び寄せないこと。

＊監督が同一回に同一投手のところへ2回行った場合は自動的に投手の交代となる。

3. この規程に定めるものの外、必要事項は審判員が大会責任者（ここでは球場責任者）と協議して決定する。
4. 申告故意四球は野球規則（5.05(b)(1)）の通り、継続採用とする。

【審判員の服装】

責任審判員、義務審判員ともズボンはチャコールグレー、上着(シャツ)はブルーを着用し、帽子については紺系統のものを着用すること。ユニフォーム、ジャージー等でのジャッジは禁止する。

靴については、黒系の靴を履くものとする。

附則；この規則は、**令和5年3月4日**より実施する。